

堺市南区政策会議 3つの方向性 評価シート

方向性	南区独自の防災力向上モデル ～“あたらしい共助”の輪を広げよう～													
目標	災害からいのちを守るため、すべての区民が防災力を高め、誰ひとり取りこぼさない、安全・安心な未来を共創する。													
評価指標	指標	単位	年度	目標値	実績値	達成度 (実績値/ 目標値)								
	実務者連絡会参加校区（地区） 数	校区 (地区)	R6	20	20	100%								
			R5	20	20	100%								
	小学生防災リーダー養成者数	人	R6	80	115	144%								
			R5	40	42	105%								
	校区（地区）の防災訓練に参加し たいと回答した割合	%	R6	50	73	146%								
			R5	50	67	134%								
	防災士資格取得者数	人	R6	-	40	100%								
			R5	40	38	95%								
	校区（地区）防災訓練参加割合	%	R6	80	88	109%								
R5			80	#VALUE!	#VALUE!									
R6年度 自己評価														
指標に対する評価	防災3事業において、南区自治連合協議会の協力を得て、概ね目標値を達成することができた。特に小学生防災リーダー養成講座では、昨年度課題であった小学校を通じての周知方法を工夫したことで大幅に受講者数が増加した。													
指標以外の取組に関する評価	小学生防災リーダー養成講座の実施が起点となり波及した小中学校での防災授業について、区内の全小中学校に事業周知を行い、任意の1学年で実施する学校数が拡大した。 <table border="1"> <tr> <td>小学校</td><td>全19校中6校で実施(美木多・御池台・榎塚台・城山台・庭代台・桃山台)</td></tr> <tr> <td>中学校</td><td>全9校中6校で実施(宮山台・庭代台・三原台・晴美台・若松台・原山台)</td></tr> <tr> <td>健全育成事業・学校群</td><td>2中学校区で実施(若松台中・若松台小・茶山台小・上神谷小) (赤坂台中・赤坂台小・新檜尾台小)</td></tr> </table> ※中学校のうち、三原台・原山台は全学年、晴美台は2学年（1・2年）で実施。 ※上記は、各校区（地区）の自主防災組織が主体で取り組んでいる学校を含まず、自治推進課もしくは南消防署と自治推進課とで連携実施した防災授業の実績です。 また、防災士資格取得者の訓練指導技術向上及び校区（地区）防災訓練参加割合増加を目的に、南消防署協力のもと防災士スキルアップ学習会を実施した。 <table border="1"> <tr> <td>防災士資格取得者40人中20人が参加</td><td>50%</td></tr> </table> ※防災士資格取得者数には、令和6年度再試験により合格した2人を含みます。						小学校	全19校中6校で実施(美木多・御池台・榎塚台・城山台・庭代台・桃山台)	中学校	全9校中6校で実施(宮山台・庭代台・三原台・晴美台・若松台・原山台)	健全育成事業・学校群	2中学校区で実施(若松台中・若松台小・茶山台小・上神谷小) (赤坂台中・赤坂台小・新檜尾台小)	防災士資格取得者40人中20人が参加	50%
小学校	全19校中6校で実施(美木多・御池台・榎塚台・城山台・庭代台・桃山台)													
中学校	全9校中6校で実施(宮山台・庭代台・三原台・晴美台・若松台・原山台)													
健全育成事業・学校群	2中学校区で実施(若松台中・若松台小・茶山台小・上神谷小) (赤坂台中・赤坂台小・新檜尾台小)													
防災士資格取得者40人中20人が参加	50%													
多面的評価	共創性	妥当性		効率性										
	校区自治連合会、小中学校など多様な団体における防災意識の向上に貢献した。	これらの取組が防災意識と共助の重要性を再認識するきっかけとなった。		小学生防災リーダー養成講座について、小中学校での防災授業であれば学年全員に対して講義できることから、効率性はより高くなっていると評価できる。										
総合評価	実務者連絡会については、地区防災計画の策定や防災訓練内容の充実に効果的であった。また、中学校区でのグループワークなどを通じて、校区間での交流も一部できつつあり、校区の垣根を超えた防災活動への展開も期待できる。地域の防災士が、積極的に校区（地区）自主防災訓練に携われるように、訓練項目解説の研修など、支援を継続していく。													
構成員の評価														
目標達成に向けた取組に対する評価	評価	(A～Dで評価)	A 非常に評価できる	B 評価できる	C あまり評価できない	D 全く評価できない								
	コメント	次ページ参照	53%	47%	-	-								

南区独自の防災力向上モデル ～“あたらしい共助”の輪を広げよう～ 構成員コメント

評価	コメント
A	1項目を除いて目標値を達成しており、取り組みの当初目標を十分に達成していると評価する。地域の防災士への支援を継続していくという今後の方向性も妥当である。
A	防災訓練の充実や校区間での交流等、一定の効果はあったと感じる。今後、暮らしのなかで根づくにはどうすればよいか考えていくことが大切だと思う。
A	引きつづき、地域に定着するよう、面的、継続的な取り組みを期待します。
A	達成度が100%を上回っており、取り組みが広がっていることがうかがえる。防災授業についても、ほとんどの中学校で行われており非常に効果的である。継続して任意の学年で行うことを呼びかけ、学校の恒例行事のようになればいいと思った。
A	将来地区防災の担い手となる人材養成をはじめ、区民の防災力を高める取り組みは評価できる。今後、校区防災訓練において安否確認及び避難所開設・運営等がスムーズに行えるよう、自主防災組織実務者連絡会及び防災士が中心となり「モデル（模範、手本）」づくりを進めていただきたい
A	小学生防災リーダー養成講座の実施をはじめ、学校での防災授業の拡充や、防災士のスキルアップ研修などを通じて、地域全体の防災意識の向上に大きく貢献されたと思います。特に、受講者数の増加や、校区を越えた実務者連絡会の開催により、“共助”の輪が着実に広がっている点が高く評価できます。 また、今後は障がいのある方や高齢者など、災害時に支援が必要となる方々への配慮を意識し、誰もが安心して参加できる仕組みづくりが重要であると思います。こうした取組を他の校区にも展開し、継続的な支援体制を整えていくことを期待しています。
A	近年はさまざまな環境変化の影響で起こる災害が頻繁しているので、幼少期から災害の危険性とその対処法などに触れる機会があることは評価に値する
A	防災意識の向上に向けて、取組に工夫を凝らして進めていただいた結果だと思う。地域の「共助」の意識が一層進むように、さらに区役所と学校との連携を推進していただきたい。
B	防災意識を高める為にも、引き続き小学生・中学生を中心に講座を開設し、浸透を図るようにしていただきたい。
B	自治推進主導ということで小学校・中学校での防災授業に取り組んだことは評価に値する。今後は子どもたちは自助の部分で（家族の中での役割）自分が災害時に何ができるか？を考えられる意識が芽生えてくることを望みたい。 共助については具体的には中学校での地区の自主防災会のプレゼンテーション（防災士参加）を経てさらに単位自治会での共助についても課題を共有する場を設けていきたい。 また、小中学生とともに地区単位でハザードマップづくりのワークショップも開いたり、防災知識を知恵に変える実践にも取り組みたい。連絡会の課題として南区独自の防災情報の共有を進める必要がある。防災を中心とした非自治会加入世帯へのアプローチなど（第2の柱）。
B	防災の取組にゴールはないので、引き続き地域力強化にご尽力ください。
B	共働き・ひとり親家庭が増える中で、小中学生が自助・共助のスキルを身に着けることは、災害時だけでなく自立し区外に出て生活する上で必要になることも含め啓発することで、実施校・実施地区が広がるのではないかと。継続して実施することを期待している。
B	小学校で防災について授業参加していました。自分たちで考えたことを発表していました。それに感銘を受け、すぐに校長先生と、今後、防災訓練の時に一緒に出来ないか聞いています。中学生を校区で思っていました、やはり小学生から訓練等に参加してほしいものです。
B	防災意識を高めるための活動と達成率は評価できる。小中学生（こども）、自治会（高齢者）のほかの世代も防災に関心があるが参加しにくさがある。防災士の養成は自治会の後継者、地域の防災の担い手としての重圧を感じない工夫が必要ではないか。
B	事業自体は評価できるが、校区ごとの取組状況のバラつきが課題であると感じた。 また、各校区での取り組みの状況が見えづかった。

南区独自の防災力向上モデル ～“あたらしい共助”の輪を広げよう～ 各事業評価

No.	1				2				3			
事業名	南区自主防災組織連絡会				小学生防災リーダー養成講座				防災士養成プログラム			
所管課	南・自治推進課				南・自治推進課				南・自治推進課			
目的	各校区（地区）の自主防災組織間の連携や情報交換の場を設けることで、各校区（地区）の取組を相互に参考にしあい、南区防災力の向上を図る。				子どもの頃から防災に興味を持ち、将来地区防災の担い手となる人材を養成し、各校区で活躍してもらう。				地域防災力の強化に向けた取り組みとして、「防災講習」と「防災士養成講座」を開催し、地域防災を担う人材を育成するとともに、「自助・共助」の意識の醸成につなげる。			
事業内容	各校区（地区）の防災の実務者に対して市からの情報提供を行うとともに、防災研修会の実施や各校区（地区）の防災訓練の見学を行う。				防災の基礎知識を学ぶ「防災オリエンテーション」と、災害による避難時の疑似体験を行う「防災デイキャンプ」を実施する。				各校区（地区）自主防災組織から推薦いただいた次世代の地域防災の担い手に、防災講習の実施と防災士の資格を取得させる。			
評価指標①	実務者連絡会参加校区（地区）数				小学生防災リーダー養成者数				防災士資格取得者数			
年度	R4	R5	R6	R7	R4	R5	R6	R7	R4	R5	R6	R7
目標値		20	20	20		40	80	120		40	-	-
実績値	-	20	20		-	42	115		-	38	40	
評価指標① 及び目標値 設定理由	【評価指標設定理由】 全校区（地区）が参加する連絡会を今年度内に設立し、どの地域も欠けることなく継続した連絡会を運営すること目的とするため 【目標値設定理由】 校区（地区）全数参加を目標として設定				【評価指標設定理由】 継続して事業を実施することを目的とするため。 ※令和5年度実績値を含む累積数 【目標値設定理由】 特定の地域に偏ることなく、各校区（地区）2人の参加をめざすため。				【評価指標設定理由】 防災士養成講座を3～4年周期に定期的に開催することを目的とするため。 ※令和5年度実績値を含む累積数 ※令和6年度実績値に再試験合格者2人を含む 【目標値設定理由】 特定の地域に偏ることなく、各校区（地区）2人の参加をめざすため。			
評価指標②					校区（地区）の防災訓練に参加したいと回答した割合				校区（地区）防災訓練参加割合			
年度					R4	R5	R6	R7	R4	R5	R6	R7
目標値						50%	50%	50%		80%	80%	80%
実績値					-	67%	73%		-	-	88%	
評価指標② 及び目標値 設定理由					【評価指標設定理由】 参加した小学生が防災により興味をもって、地域の防災訓練に参加たいと感じてもらうことで、防災意識の醸成に寄与することを目的とするため 【目標値設定理由】 2人にひとりには訓練に参加したいと思ってもらうことをめざすため				【評価指標設定理由】 地域の防災訓練へ単発の参加にならず、毎年参加し続けることを目的とするため 【目標値設定理由】 令和5年度の防災士資格取得者のうち少なくとも8割の方が訓練へ参加することをめざすため			
令和5年度 実施内容	南区自主防災組織実務者連絡会を設立し、自主防災組織間の連携を密にし、防災訓練や防犯資機材等の情報共有を行う。				防災について学習できる防災オリエンテーションと災害時の実践的な内容を踏まえた防災デイキャンプを組み合わせた小学生防災リーダー養成講座を開催する。				地域防災を担う人材を育成するために、9月に防災講習会・2月に防災士養成講座を開催する。			
令和6年度 実施内容	令和6年7月に南区自主防災組織実務者連絡会を南区役所にて開催した。 令和7年2月に第2回南区自主防災組織実務者連絡会を、梅文化会館にて防災士スキルアップ学習会と合同で開催。				令和6年8月に夏休み防災教室（防災オリエンテーション）を梅文化会館及びビッグ・アイにてそれぞれ開催した。 また、11月に防災デイキャンプを青少年の家にて開催した。				令和6年6月に防災士スキルアップ学習会を、南消防署の協力を得て南区役所にて開催した。 令和7年2月に第2回防災士スキルアップ学習会を、梅文化会館にて南区自主防災組織実務者連絡会と合同で開催。			